

=====

としまコミュニティ大学ニュース

(2020.9.25 発行)

=====

こんにちは！としまコミュニティ大学です。

9月からとしまコミュニティ大学が開講しました。

一般公開講座は、10月に開催する講座を受付中です。

最新の情報は、区のホームページのイベントカレンダーをチェックしてみてください。

今回は、9月19日に行われた、としまコミュニティ大学の講座「現代日本の貧困問題を考える～自己責任論を超えて～」の報告です。

---

講師は、大正大学社会共生学部の専任講師の高瀬顕功（たかせあきのり）氏。

専門は、宗教学、宗教社会学で、宗教組織（者）の社会参加について研究をしています。

貧困とは何かから始まりました。

「普通」とされる暮らしをするのが難しい状況にある「相対的貧困」。

日本は、先進国35か国中7番目に相対的貧困率が高いとされています。

相対的貧困は「見えない貧困」とも言われ、

子どもたちは経済状況が標準的な家庭を比べて、親と連絡を取るスマートフォンは持っていないも本や運動のグッズを持っていない「物的資源の欠如」、「教育や経験の欠如」、家に帰っても誰もいない一人で過ごすことが多い「人とのつながり欠如」があげられます。

そして、貧困にある子どもがいくら頑張っても、逆転することが難しい日本となっていて、格差が固定化しているそうです。

子どもの貧困問題については、社会的に問題を解決しようという動きがみられるようになりましたが、大人の貧困問題は自己責任論がとても根強い日本。

生活困窮者をめぐる自己責任論として、貧しい人を助けるのは政府の責任であると思うか、という2007年の調査では、日本は47か国中一番低い結果が出ました。

自己責任論が強い国、アメリカでも7割の人が政府の責任を思っているのに…日本は約6割です。

日本は「自己責任論」が社会的に強い風潮なのですね。

先生は、お互いを思いやれる社会に、そして、自分の今の生活が誰かの犠牲の上で成り立っていると思えば、何か自分に支援できるのではないかと考えることが大切、と言っていました。

受講した方の感想です。

「社会の一員としての自分の立場について考えてみたいと思いました。」

「新しい内閣が発足し、菅政権が掲げる自助・共助・公助を大変不安に思っている。」

「日本の貧困問題を再認識するきっかけとなりました。」

「SDGs の目標達成の 2030 年まで、あと 10 年しかない。17 のゴールに何かできることから取り組まないと！」

SDGs の持続可能な目標として、1 番目は「貧困をなくそう」です。

今年 7 月、豊島区は「SDGs 未来都市」および「自治体 SDGs モデル事業」にも選定されました。

今後区では、SDGs に関する普及啓発や様々な事業を展開していきます。

---

次回の発行は、2020 年 10 月 25 日です。

---

発行：豊島区 学習・スポーツ課 生涯学習グループ

<http://www.city.toshima.lg.jp/bunka/shogai/kyodokoza/index.html>

としまコミュニティ大学事務局

住所：〒171-8422 豊島区南池袋 2 丁目 45 番 1 号

電話:03-4566-2762 (平日午前 8 時 30 分～午後 5 時 15 分)

ファクス:03-3981-1577

E メール: [A0014606@city.toshima.lg.jp](mailto:A0014606@city.toshima.lg.jp)

■豊島区内で開催されている講座の情報は「講座ほっとニュース」で！

としまコミュニティ大学ニュースとあわせて登録してみたいはいかがでしょうか。

「豊島区ホームページ」からどうぞ。

<https://www.city.toshima.lg.jp/012/kuse/koho/007058/index.html>

※メールの配信停止を希望される方は、豊島区公式ホームページの「メールマガジン配信停止」から配信停止の手続きを行ってください。

-----

Copyright(C) 豊島区 All right reserved

掲載記事の無断転載を固く禁じます。

-----